

スローガンについて

……しかし、物のわかった煽動家なら、肯定的なスローガンにせよ、否定的なスローガンにせよ、「激化させる」だけのためにスローガンをかかげてはならないことを理解できるだろう。「極反動国会から手を引け」という否定的なスローガンは、ある悪とのたたかいを「激化させる」志向によって正当化できると主張したのは、アレクシンスキー型の人間だけである。

たたかいを「激化させる」ということは、主観主義者の空文句である。主観主義者は、マルクス主義が、あらゆるスローガンを正当化するためには、**経済的**現実をも、政治情勢をも、このスローガンの**政治的**意義をも、正確に分析することを要求するものだという点をわすれている。こんなことをかんでふくめるように言うのは気まりが悪いが、そうしなければならないのだから、仕方がないではないか？ …………… (P66)

ペ・キエフスキーは、われわれの引用した箇所の注のなかで、こう書いている、「われわれは『強制的併合に反対』という要求を完全に支持することを強調する」。……

このような「要求」は、自決の承認にひとしく、この要求を自決に帰着させないかぎり、「併合」の概念をただしく規定することはできないという、われわれのまったく明確な言明にたいして、この筆者は一言もこたえていない！ おそらく彼は、討論のためには、命題と要求をかかげれば十分であって、それを証明するにはあたらな*い*と考えているのであろう！

彼は、つづけて言っている、……「一般にわれわれは、プロレタリアートの反帝国主義的な意識を激化させる一連の要求を、**否定的な**定式にして完全にうけいれるが、しかも、現存の制度を地盤としながらも、これに相当する**肯定的な**定式を選びだす可能性はすこしもない。戦争には反対だが、民主主義的講和に賛成なのでない」……

これはまちがいである、——最初の言葉から最後の言葉にいたるまで。この筆者は、われわれの決議『平和主義と平和のスローガン』（パンフレット『社会主義と戦争』44～45ページ）〔本全集、第二巻、156～157ページ〕を読んで、それを是認してさえいるようだが、それを理解しなかったことは、明らかだ。われわれは、民主主義的講和に**賛成**であるが、決議に述べてあるように、それが「一連の革命がなくとも」こんにちのブルジョア政府のもとで可能であるという欺瞞にひっかからないように労働者に警告するにすぎない。われわれは、「抽象的に」に平和を説くこと、すなわち交戦諸国の**こんにちの**政府の真の階級的本性を、もっと正確に言えば帝国主義的本性を考慮にいれな*で*説くことは、労働者を愚弄するものだ、と宣言した。われわれは『ソツィアルレーデモクラート』紙（第四七号）のテーゼのなかで、もし革命がこんにちの戦争中にもわが党を権力につかせるならば、わが党は、すべての交戦国に民主主義的講和を即時提議するであろう、とはっきり声明した〔同、四一八ページ〕。

ところが、ペ・キエフスキーは、自分は自決に反対する「だけ」であって民主主義一般にはけっして反対ではないと自他にむかって断言しながら、「民主主義的講和に賛成でない」と言うにいたっている。これは、珍妙なことではあるまいか？

ペ・キエフスキーのまだこれ以外の実例の一つ一つに立ちいって述べる必要はない。な

ぜなら、読者という読者を微笑させるような幼稚な論理的誤りを反駁するのに、紙面を空費することはないからである。「プロレタリアートの反帝国主義的な意識を激化させる」ことだけに役だつと同時に、社会民主党自身権力をにぎったばあいにはその**問題**をどう解決するか、ということに積極的な解答をあたえることのできない「否定的な」スローガン、そういうスローガンは、社会民主党には一つもないし、またありえない。一定の肯定的な解決法とむすびつかない「否定的」スローガンは、意識を「激化」させないで、にぶらせる、なぜなら、このようなスローガンは、空語であり、むきだしの絶叫であり、内容のない大言壮語だからである。

第二三巻 P72~73 『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』

1916年8月~10月に執筆

注) ……は原文中の省略、それ以外は青山の原文の省略。

ポイント

マルクス主義は、あらゆるスローガンを正当化するためには、**経済的**現実をも、政治情勢をも、このスローガンの**政治的**意義をも、正確に分析することを要求するものである。

われわれは、「抽象的に」に平和を説くこと、すなわち交戦諸国の**こんにち**の政府の真の階級的本性を、もっと正確にいえば帝国主義的本性を考慮にいれなで説くことは、労働者を愚弄するものであり、民主主義的講和がこんにちのブルジョア政府のもとで可能であるという欺瞞にひっかからないように労働者に警告しなければならない。

社会民主党自身権力をにぎったばあいにはその**問題**をどう解決するか、ということに積極的な解答をあたえることのできない「否定的な」スローガン、そういうスローガンは、社会民主党には一つもないし、またありえない。一定の肯定的な解決法とむすびつかない「否定的」スローガンは、意識を「激化」させないで、にぶらせる、なぜなら、このようなスローガンは、空語であり、むきだしの絶叫であり、内容のない大言壮語だからである。